

# 「当別ダム完成後、修正姑息」

## 札幌市が水需要予測引き下げ

### 市民団体は反発強める

2012年に完成した当別ダム(石狩管内当別町)をめぐる、札幌市が建設に参加する根拠とした水需要の予測を、現在の供給能力を大きく下回る水準まで下方修正したことに對し、以前から「過大な予測」と指摘してきた市民団体が反発を強めている。市は水源の分散化を理由に計画通り25年度から取水する方針だが、取水量は総需要の1割に満たないため、「分散効果は薄い」との声も上がっている。

(水野富仁)

「ダムが完成してから需要予測を引き下げるのは姑息だ」。北海道自然保護協会の在田一則会長は11日、市役所で会見し、市の対応を批判した。

市は07年度、35年度の1

札幌市の2035年度の水需要予測

(1日当たり)	今回の推計	07年度推計
総需要の 最大値	61万7900 立方メートル	87万2000 立方メートル
一般家庭用の 平均需要	37万2200 立方メートル	42万9300 立方メートル
業務用の 平均需要	8万8700 立方メートル	20万5070 立方メートル
人口ピーク	193万7000人 (15年度)	196万2000人 (20年度)

日当たりの最大水需要が、保有する水源の供給能力84万立方メートルを上回る87万立方メートルに達する、と試算した。

しかし、今年3月にまとめた15年度から10年間の「水道ビジョン」では、経済成長が期待通り進まなかったことや人口減少の進展を踏まえ、3割減の62万立方メートルに下方修正した。

その一方、現在の水源の98%を豊平川に依存していることから、市は災害や事故に備え分散が必要との考えも示し、当別ダムの必要性を強調している。

これに對し、同協会は会見で「当別ダムからの取水量は1日当たり最大4・4万立方メートルで、35年度の最大

需要予測の7%にすぎず、大きな効果は期待できない」と指摘した。

札幌、小樽、石狩、当別の4市町と道でつくる当別ダムの水道事業企業団の総事業費は734億円で、うち札幌市の負担は131億円に上る見込み。札幌市への水道水供給に向けた浄水場と送水管の整備は20年度から始まり費用は26億円。

会見に同席した市民団体「当別ダム周辺の環境を考える市民連絡会」の安藤加代子代表幹事は「必要のないダムから取水するための財政出動はするべきではない」とし、浄水場整備などを中止するよう訴えた。

# 札幌市 水需要3割減

## 35年度推計 当別ダム不要の声も

札幌市が、当別ダム（石狩管内当別町）の建設に参加する根拠とした2035年度の市内の水需要予測について、1日当たり最大87万立方メートルから同62万立方メートルに約3割引き下げたことが11日、分かった。市が現在保有する、豊平川などを水源とする供給能力（同84万立方メートル）だけでもまかなえる計算になり、自然保護団体は「不要なダム建設だった」と批判している。

市は今年3月にまとめた15年度から10年間の「水道ビジョン」で、7年ぶりに

水需要を推計。前回と比べ、業務用需要が6割近く落ち込み、人口減少も早く進行する見通しを踏まえ、大幅に下方修正した。

市の前回予測をめぐっては市議会でも「過大な予測」などと指摘されていた。

市は「その都度、適切に予測してきた」と説明。その上で「現在の水源は98%を豊平川に依存しており、災害などに備えた分散が必要」として、計画通り25年度に当別ダムから取水を始める方針だ。

これに対し、北海道自然

保護協会は、今後予定されている当別ダムと札幌市を結ぶ送水管整備などの中止を求めている。

当別ダムは道が建設し12年10月に完成。水道事業については札幌、小樽、石狩、当別の4市町と道でつくる企業団が運営し、13年4月に札幌を除く3市町への供給を始めた。

治水・かんがいを除く事業費73.4億円のうち、札幌市の負担は13.1億円となる見込み。